

富山県立大で インテック「公開寄附講座」

IT産業の歴史と未来

富山県立大学工学部にて、インテックは4月から15回にわたる寄附講座を実施しました。同大学の客員教授を務めるインテック最高顧問の中尾哲雄がコーディネーターとして、東京大学大学院の江崎浩教授、慶應義塾大学の國領二郎教授をはじめ、IT分野の第一線で活躍する方々に講義を担当していただきました。

科目は情報システム工学科の企業経営概論「IT産業の歴史と未来」。日程前半の講義では、ITが企業・産業を通じてどのように社会に溶け込んできたか、技術革新がもたらしたインパクトや産業化の過程における経営者の視点、IT産

業の発展を支えた市場等について、技術・経営学術の観点から考察しました。後半では、ロボットやM2M (Machine to Machine)、スマートカーなどの最新技術や話題を取りあげるとともに、ITの未来について考えました。

講義は学生だけでなく、一般にも開放し、毎回約100名の受講者が熱心に耳を傾けました。受講者からは、「未来の可能性の大きさを感じた。ITを面白いと感じる気持ちを忘れずに取り組んでいきたい」「トレンドや新技術に敏感になり、ビジネスチャンスを見つけた」「革命的な技術やアイデアで産業を活気づかせたい」などの感想が聞かれました。

ネット時代をどう生きるか

8月5日の最終回では、総括として中尾哲雄が、「ネットで検索する知識、それは断片的知識である。それらを貼り合わせたいような論文や報告書が多い。新幹線が開通したとき富山はどう生きていくのかなどのテーマに対して議論し、知恵を出していくのは、人々とであり、インターネットではない。単なる知識」と知恵は違う。ここにIT時代の大きな課題があると思う。またネットゲームに没頭して失敗したりリセットするなどが若者の大きな社会問題につながっている。ネット時代をどう生きるか、諸君と今後も話し合い考えていこう」と語りかけました。



講義する中尾哲雄



質問を受ける國領二郎氏



富山県立大学
1962年開学の富山県立大谷技術短期大学(1972年富山県立技術短期大学に改称)を前身とし、1990年に開学した工学系の単科大学。地域に根ざした科学技術の拠点として、IT、バイオ、ロボットなどの実践的なカリキュラムをもつ。キャリア形成にも力を入れており学生の就職率は常に全国トップクラスを誇る。
住所：富山県射水市黒河5180

技術や産業、市場など様々な視点からの複眼的思考、歴史の中からIT産業の将来を見出す力…。
インテックは未来を担う学生に向け
第一線で活躍する研究者や技術者を招いて寄附講座を実施しました。

インターネットの出現 「産業・政策」



東京大学大学院 教授 江崎 浩氏

インターネットは世界中に普及し、グローバルで、安価で堅牢な通信環境を実現した。その結果、従来の電話網では考えられなかった革新的なサービスやビジネスが多数登場した。その鍵の一つが「All for one, one for all」の考え方。世界中で情報を共有し、オープンで透明にアクセスできることで、新たな情報の活用が可能になった。また、「デジタル革命」も重要な要因。情報の保存・伝達を劣化なく、しかも圧倒的に低コストで行えるようになった。

堅牢性を実現したのは「ベストエフォート」と「パケット(デジタルの小包)」の技術によるところが大きい。インターネットはあらゆる状況下で自律・分散・協調して動作し、END-TO-ENDで信頼性を確保している。東日本大震災の際、電話や携帯電話など従来の仕組みが使えない中で、インターネットやSNSが被災状況や安否確認に使われたことは記憶に新しい。

さて、私たちは先入観で判断し思考停止に陥っていないだろうか。ITを身近に使いながら成長してきたデジタルネイティブの皆さんには、先入観を排しこれからのイノベーションと一緒に考えてほしい。

ITの未来 ～スマートカーとオンラインゲーム そして自動運転～



インテル株式会社 ディレクター 野辺 継男氏

ガラケーがスマートフォンに変わったように、クルマはスマートカーに進化しつつある。移動情報や走行記録、車の状態などをクラウド上に集め、安全走行支援や賢いカーナビに応用するなど、新しいサービスに期待がかかっている。その一方で、ガラケーがスマホに凌駕されたように、従来のハードとしての車載ナビは形を変えていくであろう。今後の車載ICT端末は、クラウドと連携したグローバルスタンダードの仕組みで実現される必要がある。そこにはスマホの位置情報、センサー、通信の技術が多数取り入れられることになる。

実は、これらの技術や考え方はオンラインゲームとも共通する部分が多い。クラウドを介して多数の利用者の場所や動きを把握・更新する仕組みや、その情報を元にイベントやアクションにつなげる仕組みなどを今後の開発に応用できる。

スマートカーはまさに進化の途中。近未来の視界予測、事故が起きないクルマ、自動運転をはじめ、さらに革新的な取り組みも進んでいる。今後、クルマがクラウドとつながるとどんな世界がやってくるのか、ぜひ、考えてみてほしい。

ITの未来(プラットフォーム) ～つながる経営戦略～



慶應義塾大学 教授 國領 二郎氏

ネットワークにつながり、さまざまな情報が蓄積・解析できるようになったことで、情報が格段に大きな価値を持つようになった。

例えばAmazonの電子書籍では、誰がどの本をいつ購入し、何頁まで読んだかを常に把握することができる。このような「つながり」によって生み出される「情報」は、モノの売り方、産業モデルを根本的に変えていく。

20世紀は匿名大衆への大量生産・大量販売モデルの時代であった。一方、これからは個客と継続的に「つながる」時代である。グローバルに点在する膨大な数のメーカー・商品から、個客ごとにカスタマイズして提供することが重要になってくる。「匿名」ではなく、お互いの情報を知らせる「顕名」の経済に転換しつつあり、そこでは「信頼」が成功の鍵となる。そして多数のメーカー・商品と多数の個客が「つながる」ための共通の仕組みがプラットフォームである。

いま、「センサー+クラウド+モバイル」で、あらゆる情報がつながる時代に近づいている。革命的なサービスはアイデア次第。若者にはアイデアとパワーで挑戦していただきたい。

開催日	講義内容	担当講師
4月 15日	IT産業史総論	株式会社インテック 代表取締役最高経営責任者 中尾 哲雄
4月 22日	IT産業史から考える	株式会社インテック 専務取締役 鈴木 良之
5月 2日	計算機からコンピュータへ① (技術)	株式会社インテック 先端技術研究所 研究開発部長 博士(工学) 新森 昭宏
5月 13日	計算機からコンピュータへ② (産業・経営)	株式会社富士通研究所 エキスパート 工学博士 安部 文隆氏
5月 20日	通信とコンピュータの融合① (技術)	株式会社インテック 執行役員 先端技術研究所長 河崎 哲男
5月 27日	通信とコンピュータの融合② (経営)	株式会社プラネット 代表取締役会長 玉生 弘昌氏
6月 3日	電話とスマートフォン	日本電気株式会社 エグゼクティブエキスパート 今井 恵一氏
6月 10日	グローバルIT産業の潮流	エクイニクスジャパン株式会社 代表取締役 古田 敬氏
6月 17日	インターネットの出現 (産業・政策)	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 工学博士 江崎 浩氏
6月 24日	インターネットの出現 (技術)	株式会社インテック 先端技術研究所 特別研究員 博士(情報理工学) 中川 郁夫
7月 1日	ITの未来(ロボット)	株式会社インタラクティブラボラトリー 顧問 大槻 正氏
7月 8日	ITの未来(M2M)	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 工学博士 森川 博之氏
7月 22日	ITの未来(プラットフォーム)	慶應義塾大学 総合政策学部 学部長 経営学博士 國領 二郎氏
7月 29日	ITの未来(スマートカーとオンラインゲームそして自動運転)	インテル株式会社 ディレクター 野辺 継男氏
8月 5日	IT産業史論(総括)	株式会社インテック 最高顧問 中尾 哲雄